

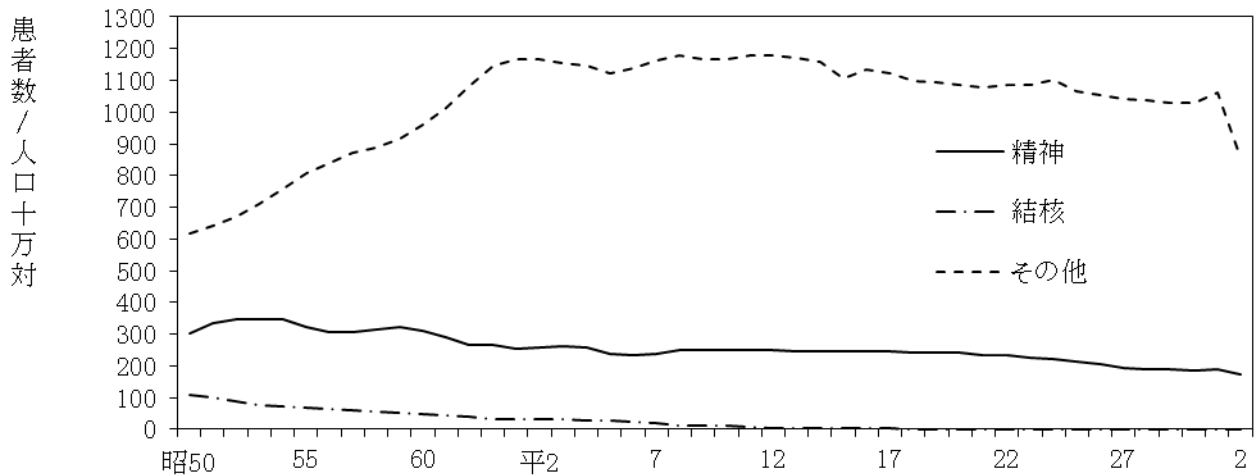
病院報告の概況

(1) 在院患者延数

令和2年中の京都市内の病院における在院患者延数は5,496,423人で、前年に比べ934,694人（14.5%）減少した。年次推移をみると、昭和45年以降増加を続けていた在院患者延数は、平成元年をピークに減少傾向にあり、ここ数年は増減を繰り返している。なお、全国では前年より5.6%の減少となっている。

病床の種類別では、精神病床が5.1%、結核病床が76.7%、その他の病床が16.3%減少した（図1）。

図1 一日平均在院患者数(人口10万対)の年次推移



(2) 新入院・退院患者数

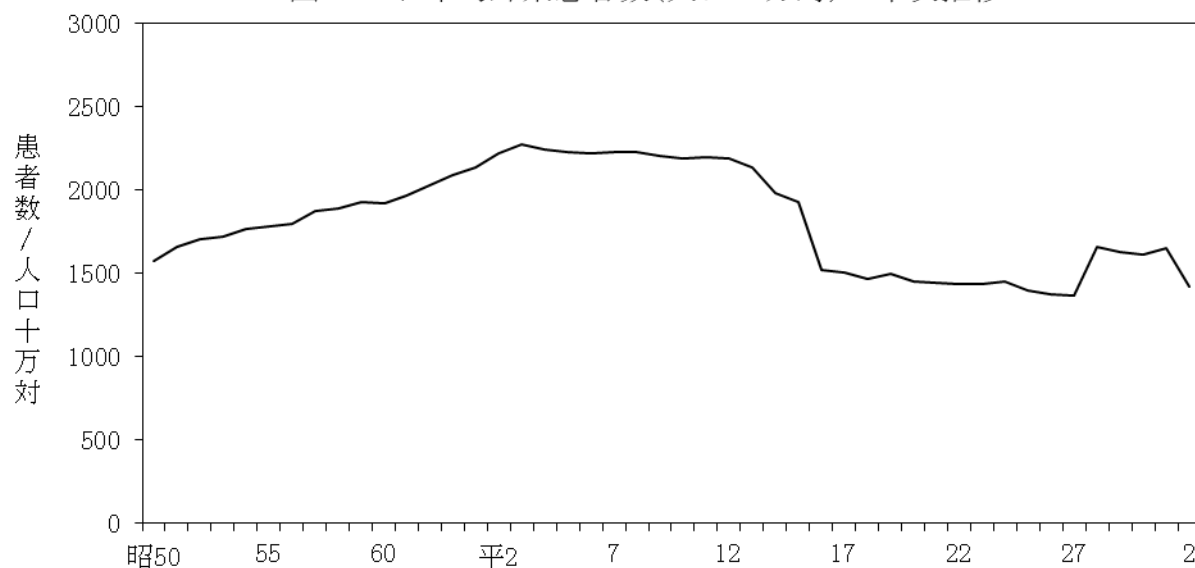
令和2年中の京都市内の病院における新入院患者数は218,301人で、前年より10.0%減少（全国8.9%減少）した。また、退院患者数は220,810人で、前年より9.1%減少（全国8.7%減少）した。

一日平均では、新入院患者数が598人、退院患者数が605人であった。

(3) 外来患者数

令和2年中の京都市内の病院における外来患者数は6,191,411人（一日平均16,963人）で、前年より10.7%減少（全国9.9%減少）している（図2）。

図2 一日平均外来患者数(人口10万対)の年次推移



(4) 病床利用率

令和2年中の京都市内の病院における病床利用率は71.6%（全国77.0%）で、前年から減少となった（図3）。

病床の種類別では、前年に比べて精神病床は3.8ポイント減少し、結核病床は4.2ポイント減少し、感染症病床は211.1ポイント増加し、その他の病床は7.5ポイント減少した（図4）。

図3 病床利用率の年次推移

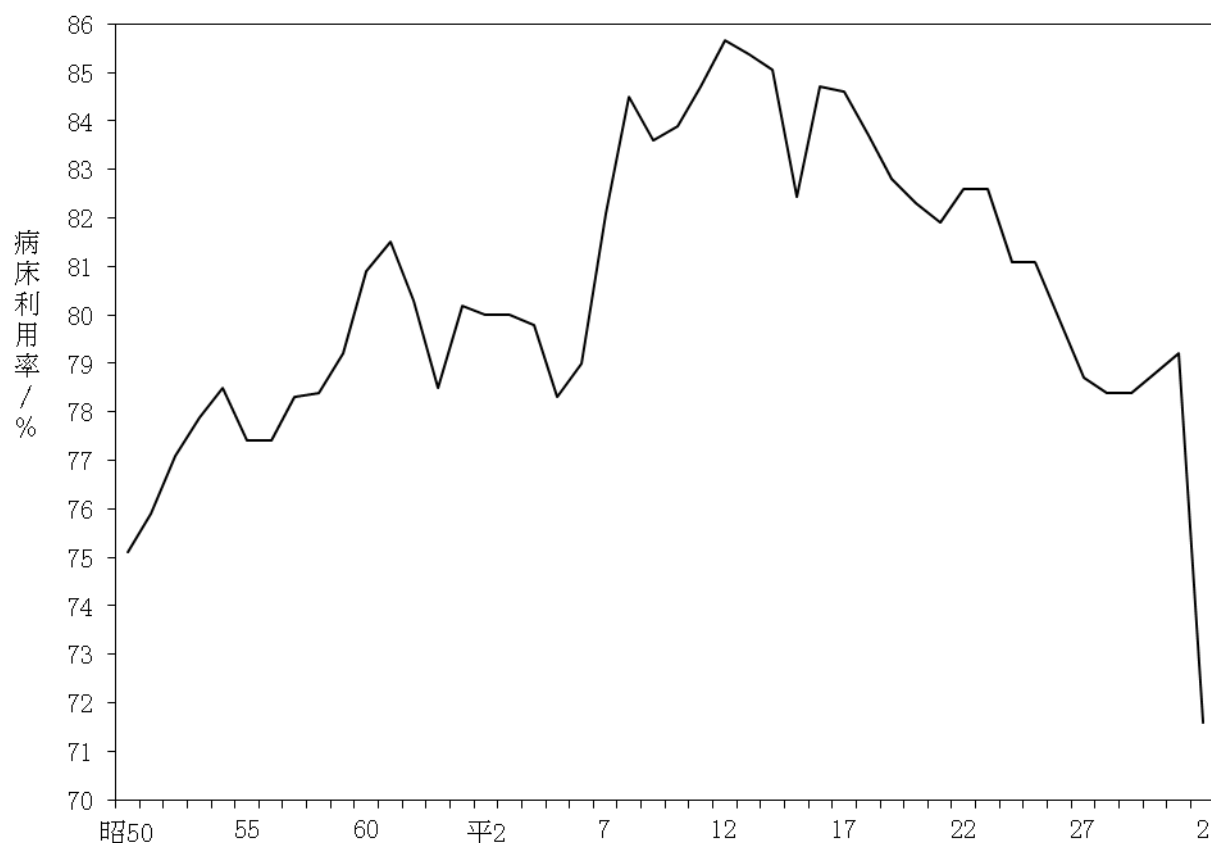
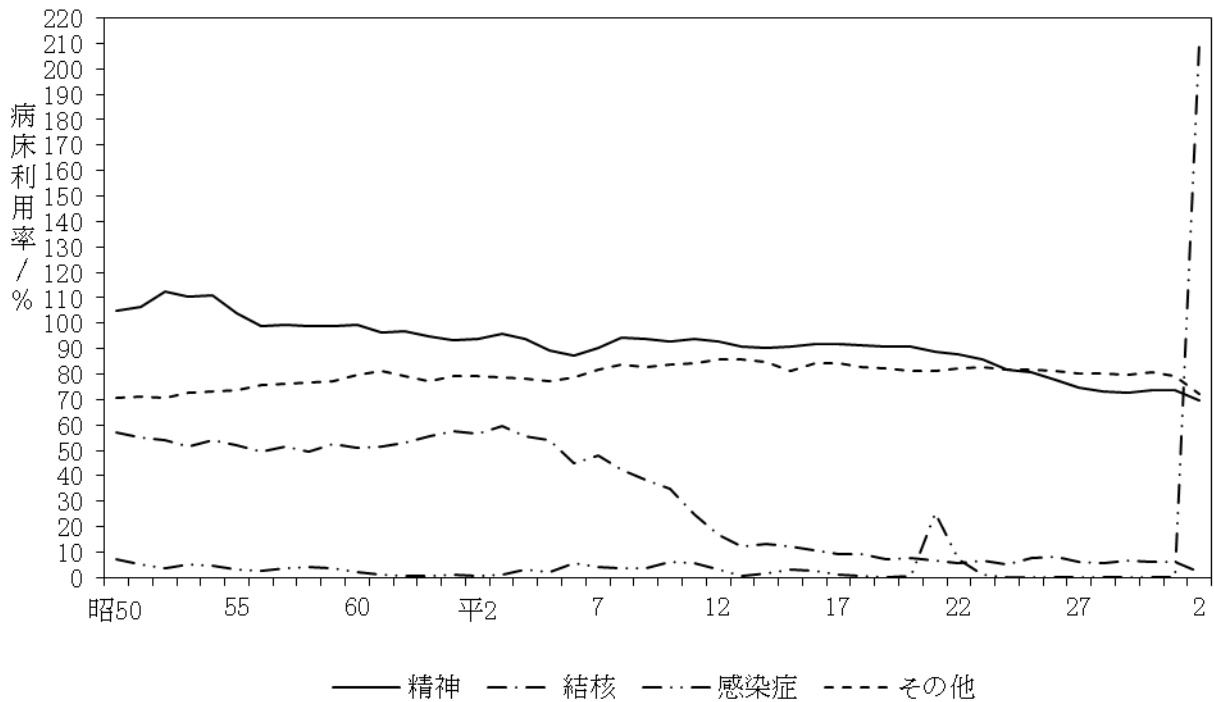


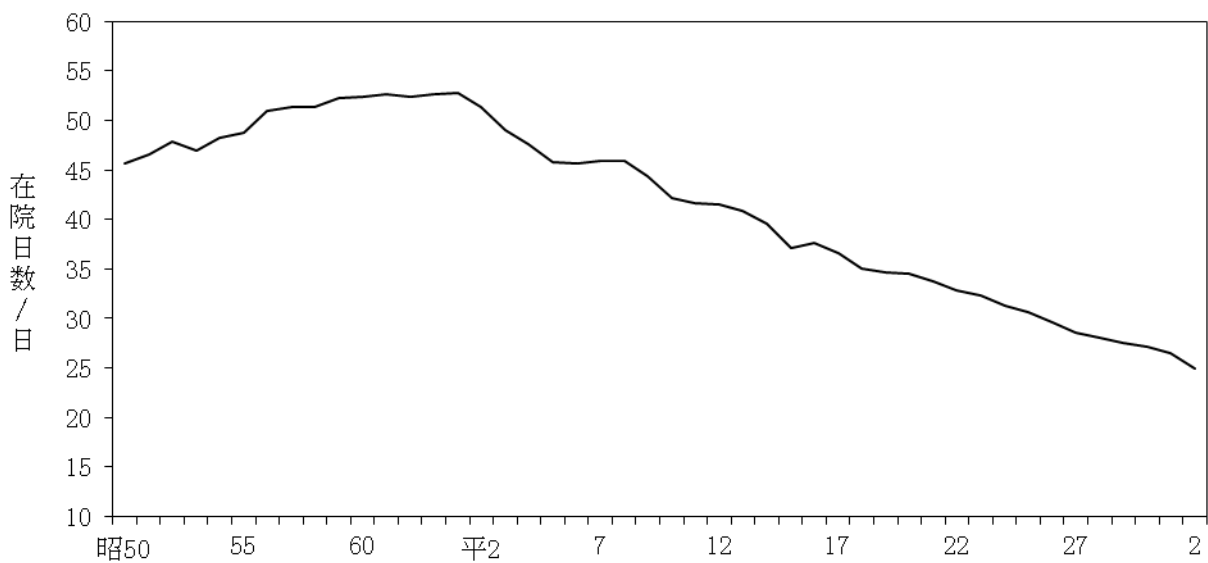
図4 病床種類別病床利用率の年次推移



(5) 平均在院日数

令和2年中の京都市内の病院における平均在院日数は25.0日（全国28.3日）で、前年より1.5日短くなっている。年次推移では、平成元年までは長くなる傾向にあったが、平成2年以降は、平成7年及び平成16年を除いて前年より短くなっている（図5）。

図5 平均在院日数の年次推移



病床の種類別では、精神病床が303.9日（全国277.0日），結核病床が11.9日（全国57.2日），感染症病床が14.3日（全国9.8日）となっている（図6）。

図6 病床種類別平均在院日数の年次推移

